



発行

社会福祉法人川崎愛児園
児童養護施設川崎愛児園
発行月 令和4年8月

住所

〒216-0035
神奈川県川崎市宮前区
馬絹1丁目24番5号
TEL: 044(855)2591
FAX: 044(865)4445
mail: kawasaki@aijien.or.jp

印刷

野崎印刷紙器株式会社

広報誌 さくら



理事長
白戸 隆

日頃より、たくさんの方々にも多方面からのご支援、ご協力、ご指導をいただいていることに心よりお礼と感謝を申し上げます。職員もこのことをしっかり受け止め子どもたちや保護者のみな様と一緒に少しずつ前進しているところです。この広報誌の作成時期になると改めて多くの方が施設を通じて子供の成長と幸福を願って応援してくださっていることが再確認できます。時代が変われども人と人を繋げ普遍的な人間愛を感じさせてくれるみな様が身近にいて下さることは施設運営を委ねられたものとしては大変心強いことです。養育にあたる者としての理念、方針、目標、倫理を浸透させていくこと

に長い時間と力を注ぎ、今よりもさらに上を目指しているわけですが結局、満足できることはなく永遠に続くのだろうと思います。良い意味でこの探求こそが大事なことで諦めてはならない大事な責務と認識しております。

3年前、小学校の時に退所した女兒が九州から会いに来てくれました。娘さんが東京で働くとのことで川崎に住居を構えるため親子で挨拶に来てくれました。45歳になっていましたが、新たな川崎愛児園を見学した後、当時の懐かし思い出話やこれまでの生活を教えてくれました。当然、何かの時は娘さんの力になりたいと安心してもらい見送ることが出来ました。

そして昨日も中学1年で退所した女兒が会いに来てくれました。50歳になっていました。今は横浜の病院で働いているとのこと、いろいろ苦労もあったことは容易に分かりました。二人ともホームページを見ており機会をみて来たかったようです。年を重ね、この時だからこそ会いたいという気持ちになったんだと思います。姿形は少し変われど面影は感じられ、この仕事もたらしてくれる人との縁の喜びとこども達に関わってこられたことに幸せを感じております。このことを一人



富士見ライオンズクラブ様より寄贈

でも多くの職員やこども福祉に係わる方々に経験していただけたらなお嬉しく思うところです。

結びになりますが、今後ともより一層の御支援とご理解を申し上げますとともに、私どもと一緒にできることを探していただける方をお待ちしております。

法人の基本理念

当法人は命の尊さを大切に、愛情をもって社会福祉事業を効果的かつ適正に行い、地域社会への貢献に努めます。また、地域社会の中で「将来を担う子どもたちへ」の質の高い養育及び子育て支援を目指します。さらに、事業経営の透明性と健全な経営を目指します。

「命を大切に」

「地域の中での養育と子育て支援」

「健全な経営」

施設の基本方針

児童一人ひとりが命を大切にすることを心持ち、心身ともに健康で調和のとれた人間として成長し、健全な社会人として自立した社会生活が営めるよう支援します。また、施設機能の専門性を活かして地域社会に協力します。

1. 一人ひとりの心身の成長に努めます
2. 一人ひとりの尊厳を維持し人権を擁護します
3. 一人ひとりの幸福のために支援します
4. 自立した社会生活が営めるように支援します
5. 施設の社会的、専門的役割を果たします

養護目標

社会的養護を必要とする入所児童に対しての基本目標は次の通りです。

1. あいさつの正しくできる人に
2. 健康な体と心をもてる人に
3. 人に好かれ、社会に役立つ人に
4. 感謝の気持ちをもてる人に
5. 人との調和がとれる人に
6. 思いやりのある人に
7. 基本的な生活や自立した生活ができる人に

コロナ禍における 子育て

川崎愛児園 評議員 松田 滋充



2020年初頭からの新型コロナウイルス禍は、商店や企業の臨時休業や倒産等により、困窮する子育て家族の増加をもたらした。子どもたちの家庭生活や学校生活、地域社会における対人関係や親子関係に様々な影響を及ぼしている。特に、子どもの休息や余暇活動、教育の権利、スポーツや文化活動への参加に係る権利、そして、生命への権利さえも危機にさらしている。このような特異な社会環境におかれた子どもの出発点である家庭生活を改めて見つめ直すことが大切ではないかと思う。「家庭の教育機能」は、一般的に①「親が子どもを産み・育てる場としての機能」②「家族が集団を形成し維持する場としての機能」③「個人が生涯に所属する集団の基礎としての機能」と言われている。

①は、教育基本法第十条で、基本的な生活習慣を身に付けさせ、自立心を育成し、心身の調和のとれた発達を図ることと示されている。よって、情緒の安定、善悪判断の基礎、健康・安全のための基本的な生活習慣を身に付けさせ、厳しく育てていくという側面と、理屈抜きに愛情をもって抱きしめるという側面が、個々の家庭の特性に応じてバランス良く働くことが必要である。

②は、家庭における生活信条やきまり、家族構成や職業の状況等、独自のものがあり、それを親が自覚し尊重して心豊かな繋がりをもつ集団をつくること。家族の中で自律心や役割の自覚、思いやりや家族愛等の道徳性を養い、他の人との関わりにも広がりをもてるようにする。

③は、人は一生の間に、数多くの集団に所属し成長していくが、常に、その中で自己の在り方や生き方の基本となっているのは家庭である。愛情と信頼に満ち、基本的な生活習慣が確立した役割意識の明確な家庭から、縦や横の人間関係の基礎が培われ、礼儀や協調性等の社会性の基礎が育っていく。

今日、様々な事情で養育が困難になった親子に対し、社会的養護に関わる者として『家庭の教育機能』を再認識し、個別化した支援を寄り添って行うと共に、地域社会の様々な教育資源をも活用し援助することが望まれる。

理事就任にあたって

川崎愛児園 理事 堀内 千歳



日韓ワールドカップが開催された2002年4月に開園をした、社会福祉法人すぎのこ福祉会・こどものいえもも保育園に勤務をしております。自然が残る原っぱと斜面をあそび場に、子どもの生活とあそび、保護者の就労と子育てを守り支える「花の台学童ホール」の跡地に建てられた保育園です。

当時はまだ少なかった子育て支援センター、一時保育、13時間の長時間保育を実施する多機能型の保育園として宮前の地で一歩を踏み出しました。

初年度の入園前健診は保育園の完成が間に合わず、川崎愛児園の一室をお借りしてどうにか乗り切れたことを今でも覚えています。初めて出会う人、初めて過ごす場所何もかもが手探りの中で過ごした時間はあっという間に過ぎ去っていききました。開園してからは合同で避難訓練を行ったり、「愛児園祭」に年長児が参加し、荒馬踊りを披露したこともありました。

隣同士という縁に甘えて、困った時だけではなく、日々温かく見守り、支えて頂いたことは、こどものいえもも保育園の歩みに深く刻まれています。改めてお礼を申し上げます。

ここ数年は、コロナ禍の生活が続き、戸惑う事や困難さを感じる事が増えたように思います。いつも前を向いて進める時ばかりではありません。子どもも大人も悩み、傷つくこともあります。

立ち止まり休める場所であり、寄り添い続けてくれる人がいる川崎愛児園の存在は大きな支えとなっているのを感じています。子ども自身が決めたことを全力でサポートする姿勢は心強い限りです。

子どもや地域の人々の暮らしを支える場として根を下ろし、しっかりとした基盤となっている姿に、子どもたちのために出来ることは、努力を惜しまずに進んでいこうと励まされます。

子ども達が社会の中で安心して育ち、暮らすために、改革と変容を恐れずに力を注いでいかなければと思います。よろしくお願致します。

支援者のご紹介

川崎愛児園に継続的なご支援をしてくださっている方々をご紹介します。

子供は地域に育てられている

宮崎小学校 校長 西田 裕子



昨年四月に、宮崎小学校に校長として着任いたしました。市内小学校でも、川崎愛児園さんのような施設が学区内にある学校は少なく、私にとっても初めてのことでした。様々な理由で家族と一緒に暮らすことのできない子供たちを、白戸施設長をはじめ、スタッフの皆様がどれだけの愛情と思いをもって見守ってくださっているかがこの一年間でひしひしと伝わってきました。

子供たちは学校生活の様々な場面で、人との関わり方を学んでいきます。時には友達との関わり方が適切でなく、大人が間に入らなければいけないこともあります。そのような時にも、愛児園の皆様と連携することでより適切な関わり方を学び、良好な人間関係を築くことができていきます。

コロナ禍で見通しのもてない状況の中、愛児園さんの行事への参加や本校教職員の愛児園さんへの施設見学等の機会がもてないのは、非常に残念でなりません。再開の機会を楽しみにするとともに、愛児園という施設の役割についても理解を深め、連携を深めていきたいと思っております。

また、学校にとって地域協議会への参加も貴重な機会だと思っております。様々な形で地域に関わる皆様との情報共有は、子供たちが地域の宝として、実に多くの方々に見守られながら育てられていることを実感します。学校は地域の一部として、子供たちの成長の一端を担っている存在だということを自覚し、教育活動を進めていくものなのだ改めて気付かされます。「地域と共に歩む学校」をめざす本校にとって、学校と地域をつなげ、より多面的・多面的な支援の実現を可能にするこの機会を設けてくださる愛児園さんには、心より感謝申し上げます。

これからも、子供たちの成長のために協力・連携を図ってまいります。どうぞ、よろしくお願いいたします。

ご挨拶

宮前第1地区 民生委員児童委員協議会

会長 中里 文雄



私は30歳で両親の介護をきっかけに地域でのボランティア活動に参加を始めました。先ず初めは自分の子どもの年齢に合わせて、子ども会・小中学校PTA・地区社会福祉協議会児童福祉部会・民生委員児童委員等です。

「銀も金も玉も何せむに勝れる宝子に及かめやも（しろかねも くがねもたまも なにせむに まされるたからこにしかめやも）」

これは万葉集に収められた山上憶良の歌です。私が子供たちに接する時、また児童委員として活動をする時、常に私の心の中に此の歌があります。子どもは何にも勝る宝です。

そうは言っても、自分が親として子どもを育てると言うことは大変な事が多いこと、多いこと。子どもの健康・環境・友達・進路・生活面など心配事や難事は数え切れませんが、親は「子どもに親にならせてもらおう」と云いますが、まさに毎日が親業の勉強です。これは子育てを卒業した今だから言える事で、子育て中は無我夢中でした。（子どもとの楽しい思い出もたくさんありました）

最近ではコロナ禍もあり夕方、夫婦で散歩する事がありません。ある日、私たちの遙か前を小学生くらいの子三人と大学生くらいの子一人が歩いていました。兄弟姉妹四人と多くて羨ましいなと思いつつ、横道にそれたり、大変楽しそうでした。暫く行くと四人は自分たちの家へ帰ったのでしよう、見えなくなりました。私たちも同じ道すがら四人の帰った家あたりを見ますと「つくしホーム」でした。四人は職員さんと子どもたちだったのでしょうか。

ある日の夕方の散歩での微笑ましい光景にほっこりしました。日頃より施設の職員の方々には子供たちに愛情をたっぷり注いで戴いているなと感じます。私たち民生委員児童委員も地域の一人として施設の子どもたちを見守っていきたくと思っています。

物品寄贈にあたって

自動車総連 神奈川地方協議会

議長 高橋 慎吾

私が所属する、自動車総連は結成以降「社会的役割を担う労働組合が、責任の一端を果たすため、様々な事情のある人々に対して、温かい援助の手を差し伸べ、更には社会全体としての福祉政策の充実を訴求していく」との考えに基づき、福祉活動を進めています。私たち、自動車総連神奈川地協は県内に集う自動車関係企業の労働組合が集まった組織です。労働組合は、同じ企業やグループで働く仲間が、労働条件や自らの生活を守り高めるために組織された団体であり、他には組合員の冠婚葬祭などに対して、お互いを助けあう相互扶助活動も行われています。

物品寄贈活動も、全国の地方協議会が地域のきずなを強みとし、地域で繋がりのある福祉施設を中心に、施設と入所者の日々の幸せにつながる品物を寄贈しています。寄贈先の選定にあたっては、県内多くの施設から苦労点や困り事などを伺い、その施設に必要な物を選択しています。

今回、特に多かった声は、新型コロナウイルスの拡大により、施設内でのコミュニケーションが希薄になっているとの声でした。川崎愛児園さんも同様で、過去にも組織内から紹介があり、当時の寄贈後の施設の声と、今回の困り事の声ベースに決定いたしました。今回の寄贈品はそういった悩みを解消できるものとして、時代の流れに合わせてタブレット端末とさせて頂きました。画面越しでは直接対面にはありませんが、繋がり部分では十分に役に立つものと考えております。

今後、寄贈品が入所の園児たちの繋がりと、多くの笑顔に繋がることを大いに期待しております。そして、早い段階で画面を介さなくてもコミュニケーションがとれる通常の生活に戻れることを切に願っております。今後も多くの笑顔を増やしていきたいと思っておりますので、どうぞよろしく申し上げます。





令和4年度 ご寄附者様一覧

日頃よりご支援・ご協力いただきまして、ありがとうございます。

尚、一部お名前が分からず姓のみとさせていただいている方もいらっしゃいますがご了承下さい。
又、掲載許可の連絡が取れない方に関しましてはお名前を控えさせていただいております。
お名前に誤字・脱字等ございましたら、ご一報・ご指摘下さい(順不同・敬称省略 令和4年5月31日現在)。

個人

手塚勝也 太内義明 瓜田緑 嘉山兼則 木内賢一 柴田弘之・和美 戸石浩司・陽子 上原久典・経代 平林茂 石川誠・洋子 安藤高久 田中洋子 目代由美子 松本亜鐘 落合文雄 小島喜芳 山川洋子 吉田薫 幸山真理子 織茂耕治 中村布佐子 青木隆 住職・安藤秀岳 浅岡栄 吉原保昭 立原希哲 秋岡正男 佐野悦雄 松本良保・馨子 上地雄輔 小関博之 吾妻具和 中野徹 寺澤宣法 大田裕美 藤木淑子 福世明子 安藤詳一 青木寅治 山川信雄 谷山徳法 勝野由美子 安藤あゆ子 吉満史代 高宮悟 片山美夜子 内田塔子 門司一徹 近藤慎之助・由美子 都倉準一 桜井英雄 平本茂 吉村房子 ニノ宮圭子 鎌倉雪 川畑藍 堀由紀子 宇都栄子 下岡朋子 中里文雄 夢ら丘実果 小林恵子 吉村伸江 吉澤道子 三倉圭人 中澤圭輔 畠山卓士 岩田弘枝 高橋えり子 山内一弘・多恵 海福聡子 水野明仁 松井恵利奈 武本貞子 坂本令子 岩佐清子 申けいこ 三上貴美 鈴木陽子 入口満子 松原英理佳 瀧直実 中林豊 小長井浩子 平岡京子 渡辺慶子 高木龍 鈴木悠雅 菅田恵美 吉田久美子 窪田麻里 市成誠司 御宮知章子 弦巻志保 権丈信子 江添英樹 荘洋子・清二郎 平山美樹 林田茂泰 笠原勤一 太田浩一 岩壁信行 森山隆 白戸隆 杉山直也 小林佳子 鈴木尚貴 田中英治 加藤朝美 齊藤雅子 鈴木靖子 神谷ひろ子 高野繁 茂谷乃ノ葉 白土英一朗 伊藤なおみ 溝口浩司 林めぐみ 栗木志子 安達憲一 田島京子 新夢美穂 市川安紀 加藤海輝 鈴木厚太 衣笠葉 松井由紀子 中津裕子 田代浩潤 鈴木映弘 片山生葉 佐藤侑奈 咲本祐美子 廣明里 村井昇 四宮慎太郎 安部正和 齋藤文護・邦子 井本剛司 宮部弘美 他 匿名多数

団体

川崎市長 川崎市社会福祉協議会 神奈川福祉事業協会 こども元気!内科クリニック 読売新聞川崎読売会 公益財団法人毎日新聞東京社会事業団 大和リース 有馬療養温泉 三菱ふそう労働組合本社支部 三菱ふそうトラック・バス(株) (株)朝日ホーム 紫虹会少年部 ルミエール小児歯科 川崎富士見ライオンズクラブ 日本乳化剤(株) 白戸ホーム ヒラノ商事(株) 宮崎小学校 宮崎中学校 野川小学校 野川中学校 橘小学校 橘中学校 生田小学校 生田中学校 初山幼稚園 ぶちラルジュ会 宮前平医院 (株)ワコーエンジニアリング (株)SL Creations (旧社名:(株)シュガーレディー本社) (株)カレンズ 代表取締役 木村仁 北信土建(株) 高島屋労働組合玉川支部 (株)チュチュアンナ ガイア川崎店 ガイアらくらく館 京セラ宮前平寮 青木萬吉商店 (株)ファー・イースト・ネットワーク 井上ラジオ 吉兆野川店 リ・ケア福祉サービス 特別養護老人ホーム等々力 オリモファーム 三橋園 Curves(川崎鷺沼店・川崎宮崎台店・センター北店・センター南店・ダイエー向ヶ丘店・横浜吉野町店・横浜綱島店・港北新羽店・すすき野とうきゅう店・麻生百合丘店・溝の口店・稲田堤店・市ヶ尾店・江田駅前店・たまプラーザ店・川崎津田山店・登戸向ヶ丘店) 日本鏡餅組合 (株)サニクリーン東京 代表取締役 佐々木純男 (株)エヌアセット 一般財団法人チャイルドワン理事長 中村憲剛 田園調布雙葉学園中学高等学校エリザベット会 遠藤環衛(株) (株)ライオン事務器 神奈川トヨタ自動車(株) こどものいえもも保育園 フィリップモリスジャパン(株) (株)宮前関口電機 代表取締役 近藤淳一 川崎市歯科医師会 城南信用金庫宮前平支店 川崎市馬絹郵便局 川崎野川郵便局局長小泉明 川崎鷺沼郵便局 ワールドメイト (社) 神奈川県養豚協会理事長 山口昌興 小味山電気管理事務所 ショップカド 丸井川崎店 (株)ドリマックス・テレビジョン(ドラマ本部) (株)しむら クボタ眼科 一般社団法人 ソーシャル・アーティスト・ネットワーク NKK シームレス鋼管(株) 奥野設計 (株)エルプラス (株)ガイアフィールド 東芝労働組合小向支部 東芝労働組合本社 コストコホールセールジャパン(株) 一般社団法人神奈川県馬主協会 (株)UYEKI (株)伊藤園神奈川西地区営業推進課 東京電力常備労働組合 高津看護専門学校校友会 たいまつ食品 東急百貨店グループ労働組合 グリーンハイツ手づくりの会 十文字学園女子大学人間生活学部幼児教育学科 (株)Daska & Desiree(旧社名:ダスカジャパンプクアウトモック) NPO 法人 RISE JAPAN (株)茂園 東京福祉大学 リハビリホームくらら鷺沼 日本農産工業株式会社 カネコ文具店 東洋大学 梅原農園 (有)ウエハラ新聞舗読売センター宮前梶ヶ谷 認定特定非営利活動法人ハッピーステップス (公社)全日本不動産協会川崎支部 春日山部屋 東京医療専門学校 鶴見大学短期大学部 浜友観光(株)楽園(浜松本社・溝の口店・川崎店・港北センター店) 水上学園 トイザラス (株)大和人 高志保博孝 株式会社プレナス ミサワホーム(株) 宮前グリーンハイツ自治会 あいおいニッセイ同和損害保険 (株)MS&AD ゆにぞんスマイルクラブ 日本出版販売(株) 楽天(株)楽天サンタプロジェクト アーバンロケサービス 一般社団法人川崎地域自治研究センター (株)アパマンショップネットワーク 明治安田生命保険相互会社 神奈川県運動具商協同組合 宮前区社会福祉協議会 宮前第3地区社会福祉協議会 神奈川県社会福祉協議会 日能研 全国シャンメリー協同組合 横浜西ロータリー

クラブ ギャップジャパン(株)コーポレートコミュニケーションズ 一般社団法人日本児童文芸家協会理事長
 山本省三 (宗)日蓮宗親道山慈照寺 常葉寺 (株)ajetjapan 代表取締役社長澤健太 株式会社ハイパーフィット
 ネス代表取締役 亀田政幸 宮前区更生保護女性会 川崎鷺沼ロータリークラブ オシャレ工房 KBN 株式会社
 代表取締役 齊藤越鳴 カンガルー宮前子育てねっとわーく 岡田会計 岡田玲子 大学不動産連盟 日本フィル
 メニッヒ(株) ムーンバット プレム・ラワット日本事務局 合同会社文屋代表 木下豊 株式会社三菱東京 UFJ
 銀行鷺沼支店 高津〇ネットあつぷる溝の口 NPO 法人 NGO フク21 ふらっとホーム グランフィールズカ
 ントリークラブ代表杉山孝 読売センター川崎駅前所長 酒井通雄 (株)富留屋古賀音庵取締役専務 大堀裕 宮前
 警察署生活安全課 (有)フルーツガーデン関本 関本典子 東京サンブライト(株)本多利彦 有馬鷺沼地区社会
 福祉協議会会長 福田熙 鷺沼小学校 PTA 柿生駅前ファミリー歯科 マツダ(株) そめや内科クリニック 全
 日本不動産協会神奈川本部川崎支部 日本トラスティサービス信託銀行(株) 社会福祉法人神奈川県共同募金
 会 関東アイスクリーム協会 川崎労働者福祉協議会事務局長 成田仁 (株)公益社たまプラーザ会館 一般社団
 法人 川崎青年会議所 向ヶ丘第五次自治会 (株)セレモニアあつぷる 平安会館みやまえだいら 公益財団法人
 報知社会福祉事業団 オメガクリエイティブデザイン(株)中村薫 有限会社紀之国屋商店ゆったんのほっぺた代
 表取締役 新谷優樹 銀座ふれ愛パーク(株) (株)セント代表取締役 清水弘之 キコーナ溝の口店店長 岩尾裕
 樹 Over40 united パークホームズ HR 会・おうち英語の会 (公財)資生堂社会福祉事業財団 宮前第三地区
 民生児童委員協議会 積水ハウス川崎支店 合同会社 rakusou NPO 法人カワサキミュージックキャスト 株
 式会社三笠(代表取締役社長 甘利茂伸) パーソルテンプスタッフ(株) (公社)生命保険フィナンシャルアドバ
 イザー協会 ほほえみの和 陽だまりの会 コロナと戦うボランティアマスク作り倶楽部(代表 須藤紀子) ひか
 り鍼灸整骨院(後藤光弘) (株)フレーベル館 末日聖徒イエス・キリスト教会 日本コカ・コーラ株式会社 社
 会福祉法人緑成会 新緑の郷 有限会社メディカル・ロード 井筒ハッ橋本舗 (株)たかくら新産業 (株)ベルン
 (株)ハンズ 社会福祉法人新日本学園 ホリカフーズ株式会社 一般社団法人 F-connect ありさんプロ株式
 会社 代表取締役 吉田明廣 一般財団法人日本サッカー後援会 理事 芳賀淳一 一般財団法人 共栄財団 (株)ウ
 エディングジョブ THE NEIGHBORS 土橋町内会 ギャラリー四季(株) 株式会社アマナ 渡邊昭夫税理士事
 務所 合同会社 Clarus 合同会社 ADAMAS amazon 犬葉ふえ Kimama83 増田幸枝 大和葬祭 (有)クリ
 オホーム 横浜キワニスクラブ 川崎花卉園芸株式会社 取締役 笹嶋洋平 ひまわりクリニック ユースキン製
 薬株式会社 代表取締役 野渡和義 公益社団法人 JEO・子どもに均等な機会を REWIND 高畑 ドミノピザ 246
 号店 店長 大平拓人 株式会社シーエスデー清水恵 一般財団法人 絵本未来創造機構 川崎市男女共同参画セン
 ター(すくらむ 21) 株式会社有隣堂 神奈川県民共済生活協同組合 吉本興業(株)兼近大樹 自主保育 BB だ
 ん 一般財団法人 日本児童養護施設財団 アフターケア事業全国ネットワークえんじゅ

奨学金関係

社会福祉法人全国社会福祉協議会 川崎市給付型奨学金 日本学生支援機構奨学金 一般社団法人 ozawa 社会
 福祉法人全国社会福祉協議会 川崎市給付型奨学金 日本学生支援機構奨学金 一般社団法人 ozawa いつもあ
 りがとう協会 タイガーマスク奨学金 公益財団法人神奈川新聞厚生文化事業団 一般財団法人ゼンショーか
 やき子ども財団 一般財団法人みらいこども財団 萬谷児童福祉基金 ENEOS 奨学助成 児童育成協会 自立
 支援資金貸付制度 赤い羽根福祉基金

その他

愛児園祭りバザー品寄附：沢山の方々のご協力に感謝申し上げます。

お礼

いただいた寄附金は地域向けの居場所事業や退所児童のアフターケアのために役立たせていただいております。
 誠にありがとうございます。



川崎愛児園祭り開催のお知らせ

令和4年10月15日(土)



この2年間中止とさせていただいていた愛児園祭りですが、本年度は
 感染症対策を講じた上、10月15日(土)に開催予定です。

- * 例年とは異なり、感染症対策を実施しての開催になります。地域の皆さまにもご来場時にはご協力をいただけますよう
 お願い致します。ご参加方法は随時 HP 等で掲載いたします。また、状況に応じて急遽中止となる可能性もございます。
 情勢を鑑みて最終判断を10月7日(金)に行います。
- * 例年地域の皆さまにご好評いただいておりますバザーの献品を募集致します。**新品・未使用の不用品**がありましたら、
 ぜひご協力をお願い致します。(受付時間：平日9~17時・受付期間：9月30日(金)まで)

本園だより

幼児フロア

つばみユニット

今年度は幼稚園年少1名・年中1名・年長1名・小学1年生1名・3年生1名の計5名の子どもたちと新学期がスタートしました！みんな新しいクラスや学校にドキドキしながら毎日張り切って登校・登園しています。たくさん体をうごかして跳んだり跳ねたり遊ぶ事が大好きな5人と、思いやりのある優しい気持ちで大切に、みんなでのびのびと楽しく過ごしていきたいと思っています。

わかばユニット

今年度は幼稚園年少1名・年中1名、小学1年生1名・2年生1名、計4名での生活が始まりました！それぞれ、新学期を心待ちにしており毎日元気良く過ごしています。

みんなで決めたユニット目標は『笑顔と思いやり、ありがとうが溢れるユニット！』です。マイペースな子が多いユニットですが、のびのびと過ごせる1年になりたいと思っています。楽しい事が大好きで元気な子ども達、職員も元気いっぱい、みんなでパワフルに生活しています。



学童女子フロア

れんげユニット

幼児フロアから小学2年生の1名を迎え、小学生4名・高校生2名で計6名のユニットになりました。小学生と高校生で年齢が離れていますが食事の時間にはみんなで集まり、楽しくお喋りをして過ごしています。高校生は様々な事に挑戦していきたいという気持ちがあり、学校生活と両立してアルバイトを頑張りたいと話していました。それぞれ環境は変わりましたが、出来る事を少しずつ増やせるように見守っていききたいと思っています。

すずらんユニット

新しく入所してきた中学3年生に加え、小学生2名・高校生2名・措置延長児1名の6名でスタートしました。措置延長児は大学に加え教習所や退所に向けての準備で毎日忙しく過ごしています。皆分け隔てなくすぐに仲良くなり、夕食時や休日にはみんなで楽しく過ごしています。年齢の幅が広いと目標出来る事が身近で体感できるので、それぞれのいいところを自分のものにして日々成長出来ればと思います。



学童男子フロア

あおばユニット

今年度は小学生3名・中学生1名、高校生3名で計7名のユニットになりました。高校3年生の児童は就職を見据え、様々な業種の見学に参加しています。中学生は試合等に向けて毎日遅くまで部活動に取り組んでいます。小学生は園庭や公園で体を動かして遊んでいます。あおばユニットでは言葉遣いに気を付け、仲良く楽しい雰囲気的生活を目標としています。

ふたばユニット

幼児ユニットから1名小学3年生を迎え、小学生3名・中学生3名、高校生2名で計8名のユニットになりました。退所を控えた児童もおり、退所に向け自立やアルバイト等を頑張っています。中学生は毎日部活動に励み、小学生は園庭や公園で体を動かして遊んでいます。ふたばユニットでは相手の気持ちを思いやり、安心、安全に過ごす事を目標とし、日々生活しています。



ホームだより

地域小規模児童養護施設

野川つくしホーム



野川つくしホームは今年度、高校1年生、中学1年生、小学6年生、小学3年生2名、小学2年生の計6名です。学校が変わり、新しい環境での生活がスタートすることもいろいろあり、新鮮な毎日を送っています。また、学年も上がり少しずつですが成長も感じられます。楽しく笑顔があふれるホーム作りを職員一同心掛けて行きたいと思っています。



地域小規模児童養護施設

野川すみれホーム



すみれホームは小学5年生男児、中学1年生男児、高校1年生女児、高校2年生女児2名、高校3年生男児の計6名で生活しています。それぞれ進学、進級をして中高生の割合が多いホームとなりました。自立が近づいてきているので、進路については悔いのないようじっくり時間を掛けて話をしていきたいと思っています。そして、社会に出た時に困ることのないよう、自立に必要な力を生活の中で身に付けていけるよう支援していきたいと思っています。お互いを尊重しあい、温かい心で関わり合い、みんなが安心して楽しく過ごせるホームを目指します。そして社会に出てからも誰からも慕われる人になるよう願っています。

地域小規模児童養護施設

生田あやめホーム



あやめホームは昨年に引き続き、同じメンバーでのスタートとなりました。小学3年生が2名、小学6年生、高校1年生、高校3年生、措置延長で専門学校1年生の6名です。卒業をして新しい学校に進学する子どもも、最高学年で最後の学校生活になる子どもも色々な意味でドキドキワクワクの日々となります。コロナ禍となり色々制限される日々ですが、お互いに思いやりを持ち、相手の良い所を見つけて、明るく楽しく良い思い出を作り、お互いに成長出来るホームとなるように、職員一同支援していきたいと思っています。

児童自立援助ホーム 大志



自立援助ホームは入居前に、利用の手引きを確認して、契約を交わしての入居となります。自分の意思で入居するということを大切にしています。入居する際は、皆ここで頑張っていこうという思いを感じております。目標を設定し、定期的に目標を見直し、自分の位置を確認します。違う目標が出来た時には相談して、修正をします。最近では高校生の利用も増えてきました。一人一人違う目標の為、生活スタイルも異なっておりますが、大志では皆が頑張っているところに刺激を受けながら、自分の夢や目標に向かっていけるように、私達の支援が少しでも力になればと思っております。その後退居者の近況も、私達の糧になっております。

児童自立援助ホーム

こもれび

こもれびは令和3年度4月に開所した自立援助ホームです。現在の利用者は5名で、それぞれ就職や進学を含めた自立に向けて日々頑張っています。利用者自身が自己選択・自己決定する事を大切に、職員がサポートしています。

日常的な挨拶や会話等のコミュニケーションを大切に、仕事や学校に意欲を持てるような環境づくりに取り組んできました。

地域に愛される自立援助ホームこもれびとしてコロナ禍の中、一年を通して地域清掃や町内活動に努めてきました。



福田紀彦市長からのメッセージ

小学生低学年向けメッセージ

皆さん、こんにちは。川崎市長の福田紀彦です。

コロナでなかなか皆さんの所に行けず寂しいです。皆さんが元気で居ることを心から願っています。コロナの影響で色々なことが出来なくなっている数年間ですが、そろそろ終息するのではないかと希望を持っています。これまで我慢していたことも工夫一つで色々なことが出来るのではないかと考えており、修学旅行や幼稚園・保育園・小学校でのイベントをどうやったら実施出来るか意見を出し合いながら少しずつ挑戦しています。大変な時だからこそ、優しい気持ちを持って、友だちを思いやる気持ちを持って、日々過ごしてもらえればと思っています。その先には楽しいことが待っていると思っています。



5月になると段々熱くなってきましたので、マスク対策をしつつも熱中症も心配しています。外で遊んでいる際は状況に応じて健康管理をしてください。来年こそは皆さんに会えることを楽しみにしています。応援しています。

小学生高学年以上向けメッセージ

皆さん元気にしていますか。コロナの影響で3年間訪問出来ていないので残念に思っています。コロナの影響で制限されている日々が続いていますが、どうやったら出来るか、出来る方法を探して、これからも挑戦していこうと思っています。皆さんもどうやったら出来るか自分なりに挑戦しながらこれからも頑張ってもらいたいなと思っています。

川崎市は2年後の2024年に川崎市が出来てから100周年を迎えようとしています。98年前に出来た時は人口5万人程度でしたが、今では約154万人になるので、人口30倍以上になります。川崎市は色々な出身の人が集まって、考え方や境遇の違う人達が川崎市を発展させてきているという歴史があります。この多様な価値観や考え方や違いこそが私たちの可能性や豊かさに繋がっていくと思います。それぞれの違いを認め合いながら自分自身の成長に繋げて欲しいと思います。皆さんの成長を周りの大人たちが応援していますのでこれからも頑張ってください。

職員向けメッセージ

子ども達の為にコロナ感染に細心の注意を払って取り組んで頂き本当に感謝しています。

これからも子ども達の為に出来ることを出来る方法で挑戦していきたいと思えますので引き続きのご協力を宜しくお願いします。今年も子ども達に会いに行くことが出来ず残念に思っています。子ども達が健やかに育っています。皆さんも自分達だけの問題と捉えず、子ども達は地域全体で支え合って育てていくものだと思います。自分たちで出来ないことは、周りを巻き込んで誰かと一緒に取り組んでいくといった柔らかい気持ちで、抱え込まずに居てもらえたらと思います。責任感の強い人は抱え込んでしまいがちなので、みんなで協力し合って、支え合いながら職場づくりを心掛けてもらえたらと思います。また、施設内に留まらず、地域の人達や行政職員と力を合わせながら、子ども達を守って育てていきたいと思っています。改めて日頃の取り組みに感謝します。



JJA農園「農園で野菜作り」

昨年11月、本園全ユニットが一斉に農園で採れたカブを使った献立を作り、壁新聞で発表するというイベントを行いました。小学生の子どもたちは調理のお手伝いから関わり、クリーム煮・サラダ・そぼろ餡かけなどバラエティ豊かなメニューが出そろいました。この日初めてカブを知った子もいれば、苦手だけれど「農園で採れたんだよ」と声を掛けると頑張って食べた子もいるなど、農園での活動が子どもたちの「食育」にも役立っています。3月からは夏野菜の栽培が始まりました。畑を耕すところから子どもたちが参加し、たくさん農業体験を重ねています。園主の梅原様からは野菜や果物のご寄附もいただき、関係の皆様にはいつも支えていただきありがとうございます。今年度も引き続きよろしく願いいたします。



* 地域における公益的な取り組み *

すえっこ広場

この春「すえっこ広場」から4人の6年生が卒業しました。節目として「卒業生を祝う会」を催し、色紙とプレゼントを手渡しお祝いしました。卒業生はそれぞれ「一緒に工作したのがおもしろかった」「みんなで食べるご飯の時間が楽しかった」と思い出を語っていました。

長く利用したお子さんは3年生の時から4年間通い続けてくれました。どのお子さんもほとんど休むこともなく、「すえっこ広場」で過ごす時間を楽しみに来てくれていたようで、携わる大人たちは皆とても嬉しく感じています。

また、4年半の事業の中で長く続けてこられた市民スタッフ3名に川崎市長からの感謝状が贈られています。

4月からはあらたに中学生の部も開始しており、学習支援を中心に活動しています。新しいこどもたち、新しいボランティアの皆さんとの出会いを楽しみにしております。



こども広場

あいあい

「こども広場あいあい」では昨年度もいろいろなことをして過ごしてきました。中でも夕食作りのお手伝いはこどもたちにとって楽しく貴重な体験になっています。ホットケーキ作りの日にはスタッフの人たちからアドバイスをもらいながら交流を深めることができました。また、地域交流スペースを飛び出して近所の公園でドッジボールやかくれんぼでおもいっきり体を動かすことが増えました。桜の季節にはみんなで一緒にお花見に出かけたりもしています。

保護者の方からは、「あいあい」での体験を通して子どもたちの好きな食べ物が増えた、興味の幅が広がったなどのお話をいただき、スタッフ一同あらためて喜びを実感することができました。

春から新しい仲間も増えました。今年度も引き続き地域のこどもたちの成長を皆で見守り子育て家庭を支えていきます。

「こども広場あいあい」には、スタートからボランティアとして参加しています。

近藤由美子

ボランティアさんからの声



あいあいでは、学校から帰ってきた子どもたちを「おかえり。」と迎えるところから始まります。トランプやかるた、歌ったり踊ったりたわいもないおしゃべりをしたり時々勉強もします。いい匂いがしてくる頃にはお腹はぺこぺこ。食後には卓球をする事が多く、子どもも大人も真剣勝負。

あいあいでは子どもたちと過ごす時間は楽しく、私は大好きです。子どもたちも楽しいと思ってもらえたら嬉しいです。



優しく温かな育ちの場

森合 牧子



自分の子が小学校一年生になった時に、宿題を自力で終わらせるのは無理だなと感じ、でもお母さんお父さんが帰ってくるのが遅いというご家庭もあるのだからなと思います。

「それなら、みんなで一緒に宿題をやる会をつくればいいよね。」と思いつき、近所の団地の集会所を借りて「宿題とかやる会の会」というのを始めてしまったのでした。猪突猛進とはこのことです。

思いつきで始めたその会に、近所の子どもたちが来てくれて…でもみんな宿題なんかやらずに、おやつを食べ、遊んで…それはそれで楽しそうだったので、各方面からブレイキがかかり、とん挫。ところが、その後、「川崎市のモデル事業として、団地の集会所を会場にした学習支援の会が始まるので、ボランティアとして参加しませんか?」とお誘いをいただきました。

一緒に宿題をして、遊んで、「ごはんを食べて、夜お家の人がお迎えに来てくれて…それを週2回もやるなんて!すごい!川崎市サイコー!と、とても嬉しくなったのを覚えています。

あれから5年。コロナ禍もあって形は少しずつ変わってきましたが、「すえっこ広場」は、子どもたちが学んで遊んでのんびりできる場であり続けています。

子どもたちが、学習に取り組み意欲を持っているように、学習と遊びの時間にメリハリをつけ、指示命令ではない言葉で促し、誘い、待ち…粘り強い職員のみなさんの姿勢に頭が下がります。優しく温かな時間の中で、子どもたちの中から「自分」が出てきます。あれがしたい。これは嫌だ。そんな言葉を聞くと私はほっとします。子どもたちが自分の気持ちを素直に言葉にできる場所は、実はそんなに多くはないだろうと思うからです。

子どもたちは、自分の言い分をいったん聞いてもらって、少し安心して少し前向きに学習します。積み重なった小さな安心が、大きな安心となつて、子どもたちはゆっくりに育っていきます。そんな素敵な育ちの場に参加できて、とても嬉しく思っています。

学習支援に携わって

鷹尾 慎二

私が愛児園さんに学習支援としてご縁をいただくようになって三年、今年で足掛け四年目に入っています。もともと教師でもない一介のサラリーマンだったのですが、会社をリタイア後、自由となった時間を何か世の中に貢献できることはないかと考えていました。とは言っても、特別な才能や技術を持っているわけでもありませんので、できることといっても子供たち相手の学習支援くらいしか思いつきませんでした。

マスクで経済的に恵まれない家庭の子供たちの学習支援が各地で想像以上に行われていることを知り、それなら私でもお役に立てるかもしれないと思い、情報を集めていました。川崎市の寺子屋事業や学習支援・居場所づくり事業などにも参加していく中で、経済的な事情ばかりでなく、さらにそれ以上の厳しい状況下に置かれている児童養護施設の子供たちについても、学習支援のニーズがあるのではないかと思い、思い切って川崎愛児園さんに問い合わせをしたことがきっかけでした。

経済的弱者の問題を含め厳しい状況は負のスパイラルを引き起こします。その循環を断ち切り、子供たちが自立し、厳しい境遇から抜け出していくためには、遠回りのように見えて、実は教育を身に着けることが最も近道であると思います。私一人ではできることなど多寡が知れていることは重々承知していますが、それでもやらないよりはましだと、そんな思いで関わってきました。

愛児園のスタッフの皆様は若い方が多いにも関わらず、皆様が家庭的で献身的な努力をされていることにびっくりするとともに、頭の下がる思いです。一面、スタッフの人数不足を含め諸々の課題もたくさんあるようには思いますが、私に出来ることであれば、可能な限り今後もお手伝いさせていただきたいと思っています。

ホームでの生活を振り返って

卒園生 N・H

私は小学4年生から大学2年生になる年まで川崎愛児園で過ごしました。入所した当初は集団生活に慣れず戸惑うこともありましたが、職員さん達が優しくかったので徐々に慣れることができました。

川崎愛児園で過ごして一番良かったのは色々な経験ができたことです。もともと自分は自然が好きだったので毎年のキャンプ行事が大好きでした。その中でバーベキューや釣りに行ったのも良い思い出です。クリスマスやお正月を大勢でお祝いするのも初めてだったのでとても楽しかったです。スポーツ行事は元々得意ではなかったのですが、最初は参加したくない気持ちもありましたが続けるうちに良い結果を出すこともでき、貴重な経験になりました。

私は現在大学3年生で社会福祉士を目指して勉強しています。入学時にちょうどコロナが蔓延したのでオンライン授業が多く、イメージしていた大学生活と違う部分もありますが自分なりに生活することができています。一人暮らしも慣れ、時々苦手な調理にも挑戦しています。川崎愛児園にいる時からずっと注意されてきた部屋の汚さは変わっていませんが最低限は掃除するようにしています。

授業で福祉について学んだり、一人暮らしをする中で、職員さん達が「自分のために色々なことを考えて接してくれたんだな」「家事で大変だ。子どもに対応しながら職員さんもやってきてくれたんだな」などと考えることがあり、改めて感謝しています。

今年から実習授業も始まります。ちゃんとできるか不安もありますが頑張ります。そして、無事に大学を卒業して支えてくれた皆さんに恩返しができるよう頑張りたいです。

まぎぬ児童家庭支援センター

まぎぬ児童家庭支援センターでは、地域にお住いの0歳から18歳のお子さんがいるご家庭から子育てに関する相談を受け、必要に応じた支援を行っています。ご相談には社会福祉士・保育士・臨床心理士が相談員として対応します。

With コロナの生活様式に変わり、当センターでも状況やご希望に応じてオンラインで相談をお受けすることもあります。保護者やお子さんのちょっとした相談から、区役所や医療機関に相談するにはハードルが高いと感じられるような場合など、まずはお気軽にご相談ください。必要に応じて、適切な支援機関をご紹介させていただくお手伝いも致します。

また、児童養護施設 川崎愛児園が行う、2歳から小学生のお子さんのショートステイ（宿泊預かり）・デイスティ（日中預かり）の相談窓口としても相談をお受けしています。

様々な企画や講座を通して、地域の支援を必要とする皆さまにより多く知って頂けるよう引き続き努めていきます。

親子カフェ

地域向け講座

相談事業の他にペアレントトレーニング講座や、月1回程度「親子カフェ」と称したイベントを実施しています。地域で子育て中の保護者同士が繋がる場、また保護者がお子さんと一緒に楽しんだり、時にはわずかな時間でもお子さんと離れたお部屋でイベントを楽しんでリフレッシュをしていただく機会となるよう企画しています。

今年度はオンラインと現地のハイブリッド開催や、少人数の入れ替え制での実施など、皆さまに安心してご参加いただけるよう開催に取り組みました。『手形・足形アート』イベントでは、コロナでなかなか会えない親族へのお手紙として、お子さんの足形をお母さんが頑張って可愛く仕上げる姿もありました♪また、一般財団法人100万人のクラシックライブ様による『親子向けクラシックライブ』や、宮前区役所みまもり支援センターの専門職からの『ママ・パパ防災講座』『授乳・卒乳講座』など、今年度も沢山の方のご協力で様々なイベントを開催することができました☆



◀クラシックライブ

手形アート▶



* イベント開催案内はこちら→
公式 LINE の QR 掲載



年間行事報告

4月

お花見&BBQ、
入学式・入園式

5月

こどもの日
(市長からのメッ
セージ視聴)

6月

園内プール開き

7月

七夕
夏休み

8月

夏季転住@
ハケ岳少年
自然の家

10月

ハロウィン

11月

運動会
七五三

9月

お月見

2月

節分
ポッチャ大会参加@
宮前スポーツセンター

3月

卒業式
卒業と進級を祝う会

12月

クリスマス会

1月

新年会 & お年玉

令和3年度 作品展のご報告

※新型コロナウイルスの影響でスポーツ大会は全て中止となりました。

銀賞

書道の部

.....いくん



銅賞

手芸の部

.....Sくん



Kくん(共同作品)
Aさん・Sさん・Mさん



銅賞

.....Nさん、Rさん、Nさん



銀賞

工芸の部

.....Aさん



銅賞

.....Yくん、
Yくん



銀賞

絵画の部

.....Hさん



あすなろ作品展